

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～ 発行日：平成30年7月13日

地方創生スタートから4回目の夏。 評価と次なる戦略の方向性は…

今後の地方の暮らしは、
「ICTの活用」と
「人のつながり」がキーワード



創生会議「ふくろい部会」

日：H30.6.27
場：袋井市役所「庁議室」

リアルとバーチャルの融合と選択
価値創出は「発想の転換」が必要



創生会議「首都圏部会」

日：H30.7.3
場：都市センターホテル

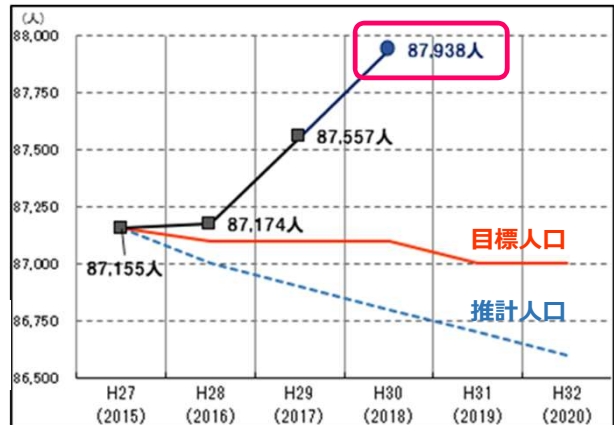
創生会議での主だった意見

人口動態は、地方創生の重要なバロメーター

○地方創生総合戦略の取組について、地域課題の解決に向けた積極的かつ果敢な挑戦は了。

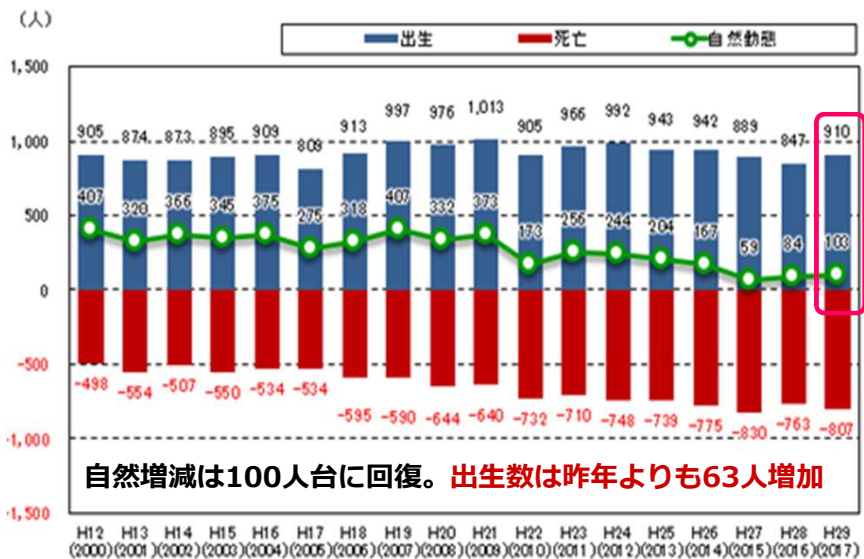
○全国的に人口減少が進展する中、人口が増加し、人口ビジョンで設定した目標人口推計を上回る結果となっていることは素晴らしい。

(右上図) 人口推移 (各年4.1現在)
 (右下図) 自然増減推移 (H12~29)
 (左下図) 県内高齢化率 (H30.4.1現在) ※静岡新聞記事抜粋

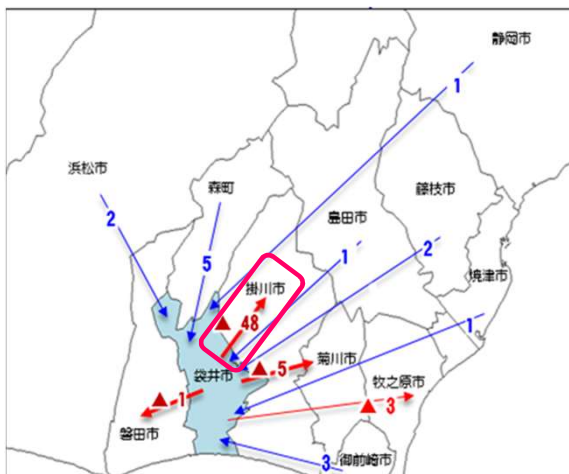


○合計特殊出生率は「1.64」と0.05ポイント低下し、若年女性人口の減少は続いているものの、出生数は昨年度から63人増加し、900人台に回復しているなど、若者が「生み育てたいまち」を実現している。

市町別	高齢化率 (%)	後期高齢化率 (%)
西川町	48.7	27.4
伊豆市	47.9	30.3
根本市	46.3	25.1
南海市	44.9	23.1
伊豆市	44.7	24.8
南伊豆市	43.7	21.9
東伊豆市	41.2	21.5
津島市	41.0	20.8
伊豆市	40.4	20.9
下田市	38.8	20.2
伊豆市	32.6	17.7
森町	31.9	15.4
伊豆市	30.7	14.5
南伊豆市	30.5	15.2
沼津市	30.2	15.6
島田市	29.8	15.3
牧之原市	29.5	15.0
岡崎市	28.9	14.7
小笠原市	28.9	14.0
焼津市	28.7	14.0
御前崎市	28.4	13.7
島田市	28.3	13.9
富士宮市	28.0	13.4
田原市	27.3	13.0
浜松市	26.9	13.6
西富士市	26.8	12.8
富士市	26.8	13.1
川崎市	26.4	12.8
掛川市	26.3	12.9
川野市	25.3	11.7
水田町	25.1	12.8
吉田町	24.3	11.6
殿場市	23.9	11.9
井市	23.1	10.8
長泉町	21.8	11.1
県計	28.7	14.3



首都圏等からの移住よりも、地域内の定住をどう進めるかが大事



	H25	H30	増減	
年少	0~4歳	4,685	4,249	-
	5~9歳	4,562	4,524	▲161
	10~14歳	4,330	4,538	▲24
生産年齢	15~19歳	4,077	4,294	▲36
	20~24歳	4,445	4,228	151
	25~29歳	5,694	4,872	427
	30~34歳	6,367	5,959	285
	35~39歳	6,814	6,286	▲101
	40~44歳	6,410	6,712	▲102
	45~49歳	5,082	6,331	▲79
	50~54歳	5,024	5,060	▲22
	55~59歳	5,595	5,031	7
	60~64歳	6,439	5,557	▲36

子育て世帯 (0~9歳) の転出は減少しているが依然として続く

(左図) H28子育て世代 (0~9歳) の近隣市町への転出入状況 (右図) 5歳階級別増減人数

「地方」の魅力が正しく伝えるためには、主体的なPRが必要

○都会は様々な面で「選択肢が多い」ことが大きな価値。しかしながら、「ふくろい」は、都会と比べ選択肢は少ないが、「緩やかな時間」や「人とのつながり」など、「無形財産」を築けるといった面ではとても豊か。「地方」の良さを正しく伝えるためには、首都圏などへの主体的なPRが必要。

○地方の大学は、豊かな自然環境や人とのつながりなどに加え、少人数教育など、「学ぶ」という部分で優位性がある。まちの規模が小さいということは、むしろまちづくりに主体的な関わりを持てるという点が優れている。



ここで生まれ、育ち、暮らすことの素晴らしさを実感できる教育が必要

○人づくりには、地域に愛着を持つ教育が重要。幼小中高大の連携に加え、地域経済界やコミュニティが一体となって進める教育により、他の地域に出ても「地元を誇りに思う」人づくりを進めるべき。そのためには、若者や高齢者、あるいは外国人など、多世代や多文化の交流を持つまちづくりを進めていくことが大切。



○「地域への愛着」を高めるには、そこで暮らす人の「満足」や「誇り」が大切。それを育むには、早い段階から特産品や地場産業などの地域資源を活用した「郷土への誇りを実感できる」教育の実施により、他との違いを理解することが必要。

「人づくり」はまち全体で！色々な人との関わりや体験が成長には大切

○考える力を育むには、幼少期に友達や地域など、家庭外の関わりを通じ、「仲間がいて見守られている」「愛されている」と感じる体験を通じ、自己肯定感を得ることが不可欠。「人づくり」はまち全体で考えていくことが必要。



○世界レベルでICTなどの技術の進展と普及は目まぐるしいが、自然の中での遊びや体験、異なる年齢の人との交流など、子どもときの様々な組み合わせによる体験は、豊かな人づくりをしていく上でとても大切であり、普遍的なもの。ふくろいにはその環境が整っている。

市内企業も後継者不足が深刻に、産業構造転換と併せた対応が急務

○会社を閉じる6～7割が後継者不足による廃業であり、年々増加している。袋井商工会議所のアンケートでも「後継者がいない」との回答が約6割。「事業引継センター」などを活用するなど、同業者による承継の促進が必要。

○本市は、輸送機器産業でもエンジン部品関係の製造業が多く、EV化による影響は極めて大きい。電子部品の製造やソフト産業など、新たな分野への産業構造転換が急務。



新たな産業の誘致には「企業が望むフィールドの提供」が大事

○新たな産業の誘致や育成には、規制緩和等により「企業が望むフィールドの提供」など、企業が自らこの場所に来たいと思わせる場づくりや「世界初」などの強力なファーストインプレッションを与えることが大事。

○成長が著しいアジアのマーケットなど、国外にも目を向けることが必要。その中でビジネスチャンスをつかむには、ここにしかない地域の魅力をターゲットに伝え、差別化を図っていかけるかがポイント。



稼ぐチカラの強化には身近にあるモノの「発想の転換」が大切



○ラグビーワールドカップの開催は、新たな価値軸や仕組みづくりに向けた絶好の契機。遠州三山などの袋井市固有の地域資源に近隣市町の持つ強みを組み合わせ、遠州地域全体として、国外のみならず国内からも人を呼び込み、滞在につなげ、地域内でお金が回る仕組みを整えられるか、それをラグビーワールドカップ後も定着させられるかがポイント。

○袋井市内に立地しているエコパスタジアムを地域資源として積極的に活用していくことが大切。スポーツ産業など、新たなビジネス創出に向けた核として、地域に還元できる仕組みづくりを進めていくことが肝要。

○ラグビーワールドカップの経済効果120億をいかに取り込んでいくか。ラグビーワールドカップ開催期間とふくろいまつりの期間が重なることを好機と捉え、まつりを参加型の観光商品として活用できないか。また、仮設のオートキャンプ場を整備し、本市にあるキャンピングカー会社などとも連携して長期滞在型の展開を検討してはどうか。

○観光誘客で新たな取組をしかけていくとき、観光資源に乏しくてもプロデュースの仕方や発信の方法次第で全国区のものとなる。ナイトタイムエコノミーなどの新たな事業も、そういった視点で取り組むことが大切。



バーチャルとリアルの融合により、「幸せに生きる」チカラを身につける



○ E d T e c h（教育×技術）などの新たな取組は、袋井市の穏やかな風土や歴史観を踏まえると、柔軟性が高く、市民も受け入れやすいと思われる。それがベースとなり、様々な分野で活躍する人の育成につながれば、とても素晴らしい。

○ I C Tなどの新技術（バーチャル）は、場所を選ばずに新たなことにチャレンジでき、それを機としてリアルな体験につながっていくことが期待できるため、様々な分野で積極的に取り入れていくことが大事。

次の時代は「人がいかに幸せや生きがいを感じられるか」が価値軸に



○ 自動運転や農業の I o t 化などにより、地方の暮らし方や農業等の様々な働き方も大きく変わっていく。新しい技術は、国全体や地方など、実情に応じて多様な形で進展していくだろう。また、地方の良さとは、「人間本来のつながり」があることであり、今後の地方の暮らしは、「I C Tの活用」と「人のつながり」がキーワードとなる。

○ 人生 100 年時代においては、年代を問わず自分が興味を持つ分野への投資など、リカレント教育（学び直し）が大事。自ら「選択」できることが、考える力を鍛えることにつながる。また、それを通じて高齢者などが、身近な人や地域を支える存在となれば、とても良い。



（参考）地方創生「総合戦略」の経過と今後の展開

（図）内閣官房まち・ひと・しごと創生本部
内閣府地方創生推進事務局資料抜粋



第2期総合戦略（H32～36）策定に向けて取組を進める